



平成23年8月31日

各 位

神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目5番14号
株式会社メディネット
代表取締役CEO 木村佳司
(コード番号:2370 東証マザーズ)
問い合わせ先 経営企画部長 鈴木邦彦
電話番号 045(478)0041(代表)

**(訂正)「HSP105由来がん抗原ペプチドに係る特許が欧州11カ国で成立」
の一部訂正について**

平成23年8月24日15時00分に開示いたしました「HSP105由来がん抗原ペプチドに係る特許が欧州11カ国で成立」において、一部誤りがありましたので、下記のようにリリース文を訂正致します。

記

なお、訂正箇所には下線を付して表示しております。

① 第2段落目
(訂正前)

HSP105は、大腸がん、膵がん、乳がん、食道がん等、多くのがんを高発現していることが確認されています。メディネットは、現在、HSP105を用いて、その有用性の検討およびがん抗原特異的CTL療法に係る新規技術の開発を国立がん研究センターと共同で行なっています。

(訂正後)

HSP105は、大腸がん、膵がん、乳がん、食道がん等、多くのがんを高発現していることが確認されています。メディネットは、平成20年9月18日より平成23年3月31日の間、HSP105を用いて、その有用性の検討およびがん抗原特異的CTL療法に係る新規技術の開発を国立がん研究センターと共同で行なっておりました。^v

以上



【参考資料訂正版】

平成23年8月31日

各 位

神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目5番14号
株式会社メディネット
代表取締役CEO 木村佳司
(コード番号:2370 東証マザーズ)
問い合わせ先 経営企画部長 鈴木邦彦
電話番号 045(478)0041(代表)

HSP105 由来がん抗原ペプチドに係る特許が欧州 11 カ国で成立

株式会社メディネットは、HSP105ⁱ由来がん抗原ペプチドⁱⁱに関する権利化を欧州11カ国で進めておりましたがⁱⁱⁱ、この度、平成23年8月24日付で各国特許が成立いたしましたことをお知らせします。

HSP105は、大腸がん、膵がん、乳がん、食道がん等、多くのがんを高発現していることが確認されています。メディネットは、平成20年9月18日より平成23年3月31日の間、HSP105を用いて、その有用性の検討およびがん抗原特異的CTL^{iv}療法に係る新規技術の開発を国立がん研究センターと共同で行なっておりました。^v

欧州において本特許を取得したことで、今後、メディネットは、HSP105由来がん抗原ペプチドを用いたがんワクチン^{vi}の開発、樹状細胞(DC)ワクチン療法^{vii}等への応用、および本抗原のライセンス等の事業展開を本格的に検討してまいります。

尚、本件が平成23年9月期業績に与える影響は軽微であります。

以上

【特許情報】

出願番号: No. 03791418.1
登録番号: EP 1536006
国際出願番号: PCT/JP03/11049
国際出願日: 2003年8月29日
発明の名称: Cancer antigen and use thereof (癌抗原及びその利用)
権利者: MEDINET Co., Ltd.
指定国: ドイツ、フランス、イギリス、スペイン、イタリア、スイス、リヒテンシュタイン、ベルギー、オランダ、スウェーデン、デンマーク

本件に関するお問い合わせ:
株式会社メディネット 経営企画部
神奈川県横浜市港北区新横浜 2-5-14
045-478-0041(代表)

i HSP105

HSP105 (Heat Shock Protein 105)は、熱などの何らの要因によって体内で生産されるストレスタンパク質に分類される。大腸がん、膵がん、乳がん、食道がん等の多くの症例で高発現するタンパク質で、正常では精巢に高発現している。HSP105 が高発現していることが確認された場合、HSP105 由来がん抗原ペプチドを用いることにより、抗原特異的な免疫治療が可能となる。

ii HSP105 由来がん抗原ペプチド

HSP105タンパク質を構成するアミノ酸配列の内、特にがん抗原特異的 CTL が強く反応する部分を指す。このペプチドをワクチンに用いることで CTL を効率的に刺激・増殖させることができる。

iii 平成 23 年 5 月 17 日付リリース

「メディネット、欧州特許庁より HSP105 由来がん抗原ペプチドの特許査定を受領」

<http://v4.eir-parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=891550>

iv CTL

CTL とは Cytotoxic T Lymphocyte (細胞傷害性 T リンパ球) の略。T リンパ球の一種で宿主にとって異物になる細胞 (がん細胞・ウイルス感染細胞・移植細胞など) を認識して殺傷する。

v 平成 20 年 10 月 1 日付リリース

「メディネット、国立がんセンターと共同研究を開始」

<http://v4.eir-parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=639526>

vi がんワクチン

がん抗原タンパク質やがん抗原ペプチドなどを皮膚内など体表面の近くに投与して体内で CTL を刺激・増殖させることで、同じがん抗原を持っているがん細胞を特異的に攻撃させる治療技術。

vii 樹状細胞ワクチン療法

がん抗原を導入・提示させた樹状細胞をワクチンとして投与することで、体内で CTL を刺激・増殖させ、がん細胞を特異的に攻撃させる治療技術。